

「高齢者の営農を支える『らくらく農法』の開発」

「高齢者の営農を支える」

らくらく農法

寺岡プロジェクト
奈良女子大学
奈良県農業総合センター
三晃精機株式会社
国立奈良高专

実験フィールド
下市町 栃原

自然会長 西宮 隆一氏
変比売 幸社 剛大 登
歴史ある柿作り
直売所「選しるべ」
主力品種「富有」

霊峰栃原岳のふもとに広がる奈良県有数の広大な柿畑。集落戸数83 柿100ha 古くから開けた中山間農村地帯である。
しかし……

高齢化に伴い営農が困難に！

10年後には担い手激減 コミュニティ崩壊へ？！

栃原地区男女別年齢別人口

年齢	男性 (人)	女性 (人)
90歳～	0	0
80～89歳	0	0
70～79歳	0	0
60～69歳	0	0
50～59歳	0	0
40～49歳	0	0
30～39歳	0	0
20～29歳	0	0
10～19歳	0	0
0～9歳	0	0

男性 87人 女性 99人

乏しい公共交通 全体の8割は20度を超える険しい傾斜畑

そこで、「よっこらしょ」から「らくらく」へ

よっこらしょ！
ゴキッ！

これは 楽だねえ～

「らくらく農法」を開発する！

「楽しく、楽に」を実現する、4つの研究・開発グループ

集落点検法グループ
リーダー 寺岡伸信 (奈良女子大 学(人社))

PPKグループ
リーダー 藤原素子 (奈良女子大 学(自))

らくらく電動運搬車グループ
リーダー 笹岡元信 (三晃精機株式会社(産))

らくらく栽培グループ
リーダー 深崎典弘 (奈良県農総セ 学(自))



熊本大学文学部専任講師、甲南女子大学人間科学部助教授（社会学）などを経て、2005年から国立大学法人奈良女子大学文学部准教授。京都大学博士（文学）。専門は地域社会学・文化社会学。農山村を主たるフィールドに、地域社会文化の発掘やその資源化、さらにそれらを用いた産業振興・地域づくりのための調査・研究を行っている。そのため食と農、地域と情報化（メディア）、さらに観光学分野にも関心を広げている。

高齢者の営農を支える / らくらく農法

寺岡プロジェクト

奈良女子大学
奈良県農業総合センター
三晃精機株式会社
国立奈良高専

主な取り組みと成果



11/12/18 地元説明会



12/10/7 波比赤神社例大祭参加



12/1/21 ミックオフシンポジウム



12/11/22 サイトビジット



●課題
地域への成果の普及
地域・行政との更なる連携と
事業効果の波及方法検討

☆今後の取り組み
第2回シンポジウム開催
会場：栃原柿の里ホール
日程：2013年1月末予定

集落点検G



集落点検



12/9/21 中間報告会

○成果
栃原地区小字単位で集落点検を実施
集落点検地図の作成（隣のポスター参照）
●課題
集落点検法の標準化／簡便化、公的統計とのマッチング
☆今後の取り組み
集落点検データの詳細解析・マップ化

PPK-G



農作業実態調査



寄り合いからの調査

○成果
農作業における身体負荷状況の把握
地区住民の身体的特性・生活様態を把握
●課題
作業負荷・日常活動量調査方法の検討
☆今後の取り組み
作業負荷・日常活動量の測定・解析

らくらく電動運搬車G



試作第1号機



試作第3号機

○成果
電動運搬車の小型化（40kg減量）
モーター他各部の強化（200w→400w）
荷重走行試験（奈良県果樹振興センター）
●課題
操作性・登攀能力・旋回特性等
☆今後の取り組み
スイッチ等操作性・旋回特性の改良
一輪タイプの試作・現地走行試験

らくらく栽培G



柿葉専作樹への改造



高級柿の葉寿司

○成果
果実生産から柿葉生産のための樹形改造
県産柿葉による高級柿の葉寿司の商品化
●課題
その他の作目・加工品等の検討
☆今後の取り組み
柿葉生産の普及拡大・栽培品目の検討・加工品の開発

将来は下市町・奈良県へ政策提言。情報発信と成果の波及を目指す。

